

改訂の序

初版の出版から4年が過ぎた。冠動脈のみならず全身の血管診療にあたることは循環器医にとって標準的なことになった。特に我が国の下肢動脈に対する末梢インターベンション (EVT) は、欧米とは異なり、循環器医を中心に行われている。このため、ガイドワイヤーは0.035inchよりも0.014inchが好んで使用され、マイクロカテーテル、CTO専用ワイヤー、IVUSの使用など欧米とは異なる循環器医独自の手技が生み出された。また、治療デバイスも浅大腿動脈領域で薬剤溶出性ステントを含む、3種類のステントの臨床使用が可能となり、治療環境も大きく変化した。このような状況のなかで、初版の改訂が必要と思ひ、羊土社と多くの先生の協力のもとに改訂版が完成した。4年間の間に我が国から多くのエビデンスが発信され、また若手医師の台頭が目覚ましく、改訂版においては新たな医師にも協力をいただいた。

PCIの技術は間違いなくEVTに応用できるが、下肢動脈、頸動脈、腎動脈など、治療する部位により、アプローチ、使用するデバイス、エンドポイント、合併症は異なり、知識と経験が必要となる。また、治療適応も内科治療、外科治療と比較して最適なEVTの適応を検討していかなければならない。私の経験からは、EVTの学習の最も効率的な方法としては、PCIと同様、教科書を読むよりも、熟練した術者の手技を見ることであり、私も毎年JPICや海外のVIVAへ参加した。国内外におけるEVTライブコースもJET、VIVA、LINCなど4年前に比べ格段に増加したが、皆がいつもこのような会に参加できるわけではなく、ライブで見たような、実技を中心とした教科書があれば、これからのEVTを志す若手医師に大いに参考になることは間違いない。

初版同様、現場でEVTを数多く施行している先生に執筆をお願いし、症例を多く盛り込み、より実践的で、ライブに参加しているような感覚で読んでいただければとの思いで編集した。簡単な症例、困難な症例、合併症症例など、読者の先生が同じような症例に遭遇したときに、すぐに参考になる実用的な本が完成した。本書がこれからEVTを始めようとする循環器医の手引書となり、冠動脈 (PCI) のみならず全身の血管病 (EVT) にも関心をもっていただき、患者の長期予後改善に繋げていただく手助けになることを願う。

2015年4月

福岡山王病院 循環器センター
横井宏佳